

しあわせ倍増プラン2013
平成25年度達成状況報告書



平成26年9月

さいたま市

「しあわせ倍増プラン2013」は、少子化や高齢者人口の増加等、さいたま市を取り巻く環境が厳しさを増す中で、本市が「市民一人ひとりがしあわせを実感できる都市」となることを目指して策定したものです。

本プランでは、子育てや福祉、教育、安全・安心、環境など市民生活に密着した111事業を位置付けており、平成28年度までの4年間の各事業の目標の達成に向けて、現在、全庁を挙げて取り組んでいるところです。

本プランの達成状況については、年に2回取りまとめ、市民の皆様に御報告してまいります。

この度、平成25年度の達成状況について内部評価を実施したところ、おおむね目標を達成した事業は111事業中97事業となりました。平成28年度末までの3年間において、より多くの事業の目標を達成すべく、全力で取り組んでまいります。

平成26年9月

さいたま市長 清水 勇人

「しあわせ倍増プラン2013平成25年度達成状況報告書」目次

1	達成状況の概要	1
	(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要	1
	(2) 平成25年度達成状況評価	1
	(3) 評価結果の概要	2
2	各事業の達成状況	6

1 達成状況の概要

(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要

「しあわせ倍増プラン2013（以下「倍増プラン」という。）」は、市長が掲げた「新しあわせ倍増計画」をもとに、着実に推進していくため、平成25年度から平成28年度の4年間を計画期間とし、10分野60項目111事業により構成される行政計画として、平成25年12月に策定しました。倍増プランの各事業には、4年間の具体的な数値目標や取組内容を掲げるとともに、事業達成時に市民生活にどのような効果があるかも示しています。

倍増プランに掲げた事業の進捗状況や成果について、客観的に評価、検証を行うため、市民や有識者によって組織する市民評価委員会による外部評価を実施します。ただし、平成25年度については取組期間が短いことから、市が自ら内部評価を行い、外部評価については、平成26年度実績に基づき平成27年度に行う「中間評価」から実施します。

なお、平成27年度に行う「中間評価」の評価結果や社会経済情勢を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。このため、平成26年度中に「市民評価委員会」を設置する等の事前準備を開始します。

また、平成28年度は、倍増プラン計画期間の最終年度となることから、4年間の達成見込みに基づく「最終（見込み）評価」を外部評価により実施します。

(2) 平成25年度達成状況評価

平成25年度実績に基づく内部評価に当たっては、倍増プランの111事業を対象とし、各事業に記載されている「(2) 各年度の目標と取組内容（工程表）」のうち、平成25年度の「各年度の数値目標等」に対する達成状況を対象として、評価を実施しました。「各年度の数値目標等」に定量的な目標が設定されている事業の評価については、110%以上を達成した事業を「A 目標を上回って達成」、90%以上110%未満の達成状況の事業を「B 目標をおおむね達成」、90%未満しか達成できなかった事業を「C 目標を未達成」とする3区分としました。

なお、「C 目標を未達成」と評価した事業については、何が支障となり、どのような対応を行っていくのかを明らかにするため、本報告書に課題と対策を記載しています。

また、評価に当たっては、原則平成26年3月31日時点を基準としましたが、平成25年度中に事業着手し、評価時点で達成しているものも含

めて評価を行いました。

表 1 定量的な目標に係る区分

評価	達成度
A 目標を上回って達成	110%以上
B 目標をおおむね達成	90%以上～110%未満
C 目標を未達成	90%未満

(3) 評価結果の概要

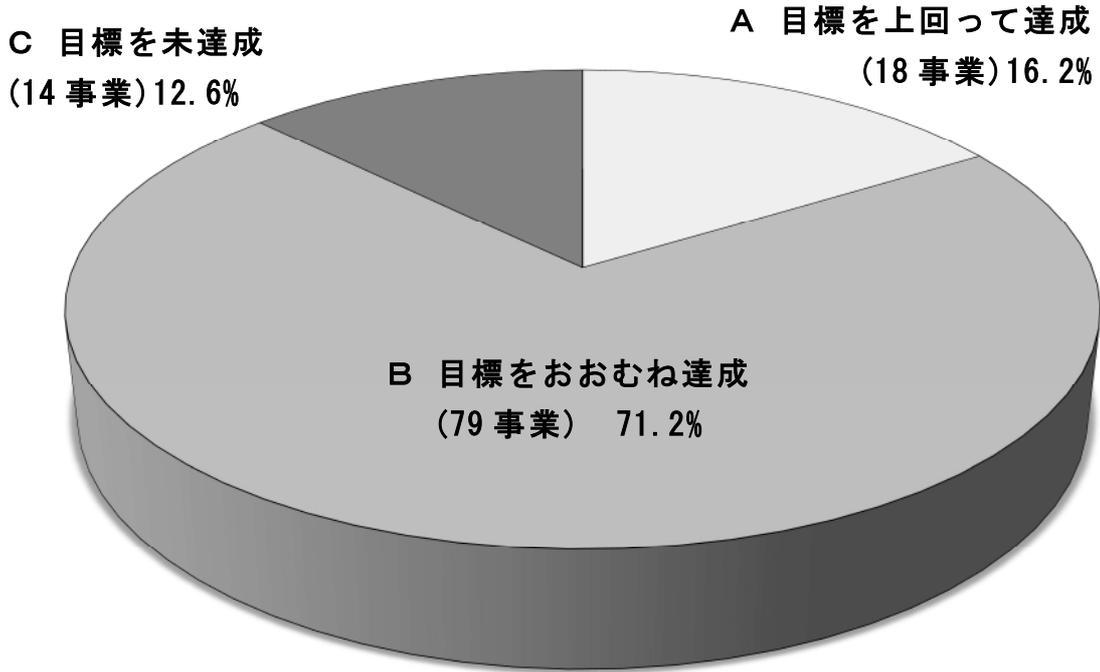
倍増プランの111事業の平成25年度の達成度について評価したところ、18事業が「目標を上回って達成」、79事業が「目標をおおむね達成」、14事業が「目標を未達成」となりました。その結果、「目標を上回って達成」と「目標をおおむね達成」を合わせた「目標を達成」した事業は111事業中97事業となり、割合では87.4%となりました。

分野別では、「1 子どもと親のしあわせ倍増」において6事業が「目標を上回って達成」となり50%を占めたほか、「3 高齢者のしあわせ倍増」、「4 障害者のしあわせ倍増」の分野においても「目標を上回って達成」している事業の比率が高い結果となりました。また、「6 健康・医療・福祉」、「7 文化・芸術」、「8 安全・安心」の分野では、「目標を未達成」となった事業の比率が比較的に高い結果となりました。

表 2 平成25年度達成状況

分野	事業数	達成度評価		
		A 目標を上回って達成	B 目標をおおむね達成	C 目標を未達成
1 子どもと親のしあわせ倍増	12	6	5	1
2 若者のしあわせ倍増	4	0	4	0
3 高齢者のしあわせ倍増	8	3	4	1
4 障害者のしあわせ倍増	11	4	7	0
5 日本一の教育都市	8	1	7	0
6 健康・医療・福祉	22	1	17	4
7 文化・芸術	5	0	4	1
8 安全・安心	13	0	10	3
9 自然・環境	16	2	12	2
10 まちづくり・コミュニティ	12	1	9	2
合計 (割合)	111	18 (16.2%)	79 (71.2%)	14 (12.6%)

図1 全体の評価結果



A 目標を上回って達成	18事業 (16.2%)
B 目標をおおむね達成	79事業 (71.2%)
目標を達成	97事業 (87.4%)

図2 分野別の評価結果

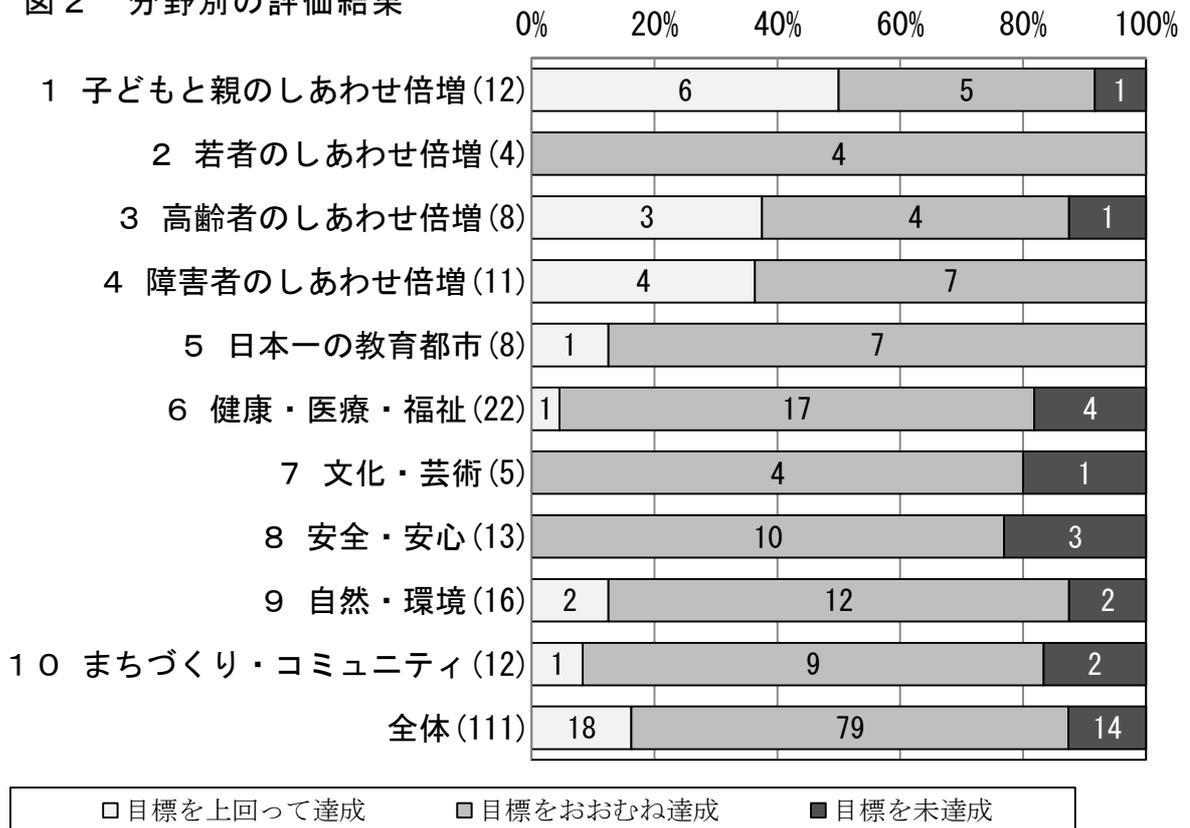


表3 「目標を上回って達成」事業一覧【18事業】

No.	事業名	掲載ページ
2-3	保育・幼児教育の推進	6
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	6
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	6
4-2	女性の再就職支援	7
4-3	女性の起業支援	7
5	ひとり親家庭高等技能訓練促進費・生活支援給付金支給事業	7
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	8
13-1	アクティブチケット事業の拡充	9
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	9
15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達の推進	9
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	9
18	必要のある学校への特別支援学級の設置	10
19	ユニバーサルスポーツの推進	10
25-2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	12
35-1	生活困窮者自立支援事業	15
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト	19
49-5	新クリーンセンター整備によるごみ発電の促進	20
56-1	自治会加入促進	22

表4 「目標を未達成」事業一覧【14事業】

No.	事業名	掲載ページ
3-3	「親の学習」の推進	7
10	高齢者見守りネットワークの構築	8
26-2	特定健診受診率を60%以上に向上（4年以内）	12
28-2	北区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	12
34	（仮称）生活保護適正化対策本部の設置	15
39-2	子ども読書活動推進事業	16
40-1	WHOセーフコミュニティの認証取得	16
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	17
41-4	中学校での防災教育	18
46	新セントラルパーク構想	19
47-3	高沼用水路の整備	19
48	滞在型市民農園と農業交流施設の整備	20
54	駅のバリアフリー化の促進	22
57	NPO等との協働事業の推進	22

2 各事業の達成状況

(1) 子どもと親のしあわせ倍増

1	(仮称)さいたま市子ども総合センターの整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		建築設計の着手		保育園や幼稚園等の子育て関係団体に対し、事業具体化調査を実施し、本施設に求められる空間要素や設備、実施プログラム等のニーズを把握し、建築基本設計を作成しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の目標である建築設計の着手について、建築基本設計を作成したことから、B評価としました。		
2-1	認可保育所の増設	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		平成26年4月1日時点での認可保育所定員増670人(前年比)(定員累計13,653人)		認可保育所の新規開設7施設(570人)及び増改築等7施設(102人)により、平成26年4月1日の定員数が前年対比で672人増となりました。(定員累計13,655人)	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の数値目標である、平成26年4月1日時点での認可保育所定員増670人について、672人の定員増を達成できたことからB評価としました。		
2-2	放課後児童健全育成事業の充実	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		平成26年4月1日時点での受入可能児童数360人増(9か所)		放課後児童クラブ10か所の新設・増設により、平成26年4月1日の受入可能児童数が前年対比で378人増となりました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の数値目標である、平成26年4月1日時点での受入可能児童数360人増について、378人の受入可能児童数の増員を行うことができたことからB評価としました。		
2-3	保育・幼児教育の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		交流者合計70人以上(実務担当者会の新設・開催、小学校体験研修、公開保育試行)		保幼小連携推進実務担当者会を設置し、会議や小学校体験研修、公開保育試行などの実施により合計98人の交流を行いました。	
		評 価	評 価	理 由	
		A	平成25年度の数値目標である、保育や教育に携わる者の70人以上の交流について、目標を上回る98人の交流を実現できたことからA評価としました。		
2-4	保育コンシェルジュの全区配置による保育相談窓口の強化	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		保育コンシェルジュの全区配置		平成25年12月に保育コンシェルジュを全区に配置し、認可保育所及び認可外保育施設の案内と、認可保育所入所不承諾者に対するアフターフォローを開始しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の目標である保育コンシェルジュの全区配置について、目標どおり全区に保育コンシェルジュを配置したことからB評価としました。		
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		年間参加者数1,590人(累計1,590人)		父親等の子育て参加を推進するため、様々な媒体を活用した情報提供を行うとともに、参加しやすい弾力的な運営を行うことにより、平成25年度の保育士・幼稚園教諭体験への参加者は年間累計2,369人となりました。	
		評 価	評 価	理 由	
		A	平成25年度の数値目標である、保育士・幼稚園教諭体験の年間参加者数1,590人について、目標を上回る年間累計2,369人となったことからA評価としました。		
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数 5,000人		・父親向け講座・イベント等の実施により、6,197人の父親が施設を利用しました。 ・さいたまパパ・スクールを開催し、延べ180人が参加しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		A	平成25年度の数値目標である、父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数5,000人について、目標を上回る6,377人となったことからA評価としました。		

3-3	「親の学習」の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		男性参加者の割合7.5% (延べ参加者数950人)		・全公民館において、親の学習事業を延べ79回実施するとともに、他の子育て関連事業との組合せによる事業も実施し、延べ参加者数は929人となりました。うち男性の延べ参加者数は48人で、男性参加者の割合は5.2%です。 ・講座の進行役を務めるファシリテーターのフォローアップを目的とした研修を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の数値目標である親の学習事業への延べ参加者数950人については、目標をおおむね達成できましたが、男性参加者の割合が5.2%であったことからC評価としました。			
		課題	父親の参加が思うように伸びていないため、父親の参加を増やすための取組が必要です。土曜、日曜に開催するなど、時期や曜日の工夫と、魅力ある講座の企画が必要です。			
対策	・講座開催時期や曜日、カリキュラムの組合せを工夫するとともに、参加者アンケート結果等を分析し、男性が参加しやすい講座を開催します。また、家族や男性保護者と子を対象とした事業を検討し、男性が参加しやすい事業を各区で実施します。 ・生涯学習総合センターにおいても親の学習を実施します。また、親の学習事業の広報紙「パパ・ママおしゃべりMAP」の紙面を見やすくし、多くの開催情報が掲載できるようにします。					
4-1	ふるさとハローワークの拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数 延べ2,000人		・「(仮称)ママさんコンシェルジュ」等の検討を行い、平成26年度に試行設置することとなりました。 ・ふるさとハローワークにおいてキャリア・コンサルティングや内職相談等を実施し、延べ1,956人の女性が利用しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の数値目標である、ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数延べ2,000人について、1,956人の女性が利用したことからB評価としました。					
4-2	女性の再就職支援	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		再就職支援事業による就職者の割合 5割以上		就業体験等の再就職支援事業を実施し、就職者の割合79.2%を達成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
A	平成25年度の数値目標である、再就職支援事業による就職者の割合5割以上について、79.2%を達成したことからA評価としました。					
4-3	女性の起業支援	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		女性による起業数 4件		女性の起業セミナーの実施などにより、女性による起業数11件を達成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
A	平成25年度の数値目標である女性による起業数4件について、目標を上回る11件の起業があったことからA評価としました。					
5	ひとり親家庭高等技能訓練促進費・生活支援給付金支給事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		平成25年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率80%		平成25年度養成機関修了者18名のうち、常勤就職・進学者は17名となり、常勤就職・進学率94%を達成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
A	平成25年度の数値目標である、平成25年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率80%について、目標を上回る94%を達成できたことからA評価としました。					

(2) 若者のしあわせ倍増

6	青少年の居場所事業 (さいたま市若者自立支援ルーム)	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		・さいたま市若者自立支援ルームの運営 ・子ども・若者支援ネットワークの設置		・平成25年8月22日に「さいたま市若者自立支援ルーム」を開設しました。 ・庁外機関を含めた子ども・若者支援ネットワークの設置及び告示を行いました。	
		評 価	評 価 理 由		
B	平成25年度の目標である、さいたま市若者自立支援ルームの運営及び子ども・若者支援ネットワークの設置について、目標を達成したことからB評価としました。				

7	若者ユースアドバイザーの養成	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		ユースアドバイザー養成内容の検討		ユースアドバイザー要請内容について、先行市の事例や本市の若者支援機関の現状を踏まえ、(仮)アドバイザー養成講習会の内容や対象者について検討を行い、開催方針を取りまとめました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である、ユースアドバイザー養成内容の検討について、養成方法を取りまとめたことからB評価としました。			
8	地域若者サポートステーションの設置	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		若年者就業支援による就職等進路決定者数120人		地域若者サポートステーション事業をはじめとする各種若年者就業支援を実施し、130人の就職等進路決定者数を達成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の数値目標である、若年者就業支援による就職等進路決定者数120人について、130人の就職等進路決定者数を達成したことからB評価としました。			
9	ひきこもり支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		(仮称) 思春期グループ支援を月4回実施		平成25年10月から、思春期グループ「コレッタ」を月4回開催しました。(延べ参加者数27人)		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の数値目標である、(仮称) 思春期グループ支援を月4回実施について、目標を達成したことから、B評価としました。			

(3) 高齢者のしあわせ倍増

10	高齢者見守りネットワークの構築	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		全地区(47地区社協854団体[自治会])の実態把握と制度の創設		地区社会福祉協議会を通じて市内全域の実態把握調査を行いました。見守り奨励金制度を創設するまでには至りませんでした。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の数値目標である市内全域の実態把握と見守り奨励金制度の創設について、見守り制度の創設に至らなかったことからC評価としました。			
		課題	地域の方々などに負担感を与えないような制度を設計し、正確に説明をすることが課題です。また、市社会福祉協議会が行っている補助金との整合性を図る必要があります。			
		対策	地域の実情に合わせた見守り体制を構築するため、個別の対応を行うとともに、自治会連合会等に丁寧に制度を説明します。また、市社会福祉協議会との調整を進めていきます。			
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		市内70%の地域にサービス提供される環境を整備		市内80%以上の地域に24時間訪問介護サービスが提供される環境を整備しました。(北区1か所、大宮区1か所、浦和区2か所の事業所を開設)		
		評 価	評 価 理 由			
A	平成25年度の数値目標である市内70%の地域にサービス提供される環境整備について、80%以上の環境を整備することができたことからA評価としました。					
11-2	介護者サロン・カフェの増設	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		介護者サロンの開催(26か所・280回)		・介護者サロンについて、市民に対する情報提供の強化を図り、平成25年度は26か所で合計282回開催しました。 ・介護者カフェについて、実際に行っているNPO団体を訪問するなどの調査・研究を行い、平成26年度当初に実施する企画提案募集の準備を行いました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の数値目標である介護者サロンの開催(26か所・280回)について、26か所で282回開催することができたことからB評価としました。					
12	公認グラウンド・ゴルフ場の整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		・現地の測量、地質調査 ・基本設計		整備予定地の測量や地質調査、基本設計を行うとともに、平成25年7月に地元説明会を開催しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の目標である現地の測量、地質調査及び基本設計について、予定どおり事業が実施できたことから、B評価としました。					

13-1	アクティブチケット事業の拡充	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		利用枚数10,000枚	アクティブチケットについて、チラシの頒布などの宣伝を行い、平成25年度の利用枚数は15,156枚となりました。(利用率37.0%)
		評価	理由
A	平成25年度の数値目標であるアクティブチケットの利用枚数10,000枚について、目標を上回る15,156枚となったことからA評価としました。		
13-2	シルバーポイント事業(介護ボランティア制度)の拡充	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		介護ボランティア制度登録者5,800人	介護ボランティア制度について、平成26年3月31日の制度登録者は、5,850人となりました。
		評価	理由
B	平成25年度の数値目標である介護ボランティア制度登録者5,800人について、5,850人となったことからB評価としました。		
13-3	シルバーポイント事業(長寿応援制度)の拡充	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		長寿応援制度登録者18,400人	長寿応援制度登録者について、平成26年3月31日の制度登録者は、17,574人となりました。
		評価	理由
B	平成25年度の数値目標である長寿応援制度登録者18,400人について、17,574人と目標をおおむね達成したことから、B評価としました。		
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		シニアユニバーシティ学生、大学院学生の、シルバーバンクへの登録30人	シニアユニバーシティ学生、大学院生の、シルバーバンクへの登録について積極的な勧誘を行い、平成25年度の登録者は39人でした。(さいたま市シニアユニバーシティ校友会連合会員登録者90人)
		評価	理由
A	平成25年度の数値目標であるシニアユニバーシティ学生等への登録30人について、目標を超えて達成できたことからA評価としました。		

(4) 障害者のしあわせ倍増

15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達推進	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		発注件数13件(前年度の30%増)	障害者就労施設等からの調達方針を策定するとともに、業務一覧を庁内に周知・啓発を行ったことにより、庁内での調達は41件となりました。
		評価	理由
A	平成25年度の数値目標である発注件数13件について、41件の調達ができ、目標を大きく上回って達成できたことからA評価としました。		
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		事業所数5か所の整備	移動支援事業所を14か所増設しました。(新規整備事業所20か所、廃止事業所6か所)
		評価	理由
A	平成25年度の数値目標である事業所数5か所の整備について、14か所の整備ができ、目標を大きく上回って達成できたことからA評価としました。		
17-1	障害者工賃向上プロジェクトの実施	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		平均工賃月額 17,000円	障害者工賃増額モデル事業の実施や商品開発支援の実施、また、障害者就労施設等に対し優先調達を行うことにより、障害者就労施設平均工賃月額17,647円を実現しました。
		評価	理由
B	平成25年度の数値目標である平均工賃月額17,000円について、平均工賃月額17,647円となったことからB評価としました。		
17-2	ユニバーサル就労の実現	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		障害者の一般就労者数160人	職業訓練や各種講座等、就労後の定期的な相談及びジョブコーチ等による定着支援を行い、障害者の一般就労者数は161人となりました。
		評価	理由
B	平成25年度の数値目標である障害者の一般就労者数160人について、目標を達成できたことからB評価としました。		

17-3	障害者の暮らしを支える住まいの整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		グループホーム6人分増設		グループホームの定員増について民間法人や国と協議を進め、施設整備費用の助成を行い、定員を6人分増設しました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		B	平成25年度の数値目標であるグループホーム6人分増設について、目標を達成できたことからB評価としました。		
18	必要のある学校への特別支援学級の設置	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		平成26年4月に特別支援学級を4校で開設（特別支援学級設置率約40%）		平成26年4月に、小学校6校及び中学校8校の計14校に、特別支援学級を開設しました。（特別支援学級設置率46.9%）	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		A	平成25年度の数値目標である特別支援学級の4校開設について、目標を上回る14校で開設したことからA評価としました。		
19	ユニバーサルスポーツの推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		ふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップへの合計来場者数1,500人		新たな競技種目の導入やブラインドサッカー日本代表との国際親善試合を開催し、ふれあいスポーツ大会の来場者数990人、ノーマライゼーションカップの来場者数700人となり、合計で1,690人の来場者数となりました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		A	平成25年度の数値目標であるふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップへの合計来場者数1,500人について、1,690人の来場があったことからA評価としました。		
20-1	発達障害者・精神障害者支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		平成26年度実施に向けての区役所との協議（年度内に2回開催）		区役所における精神保健福祉士の出張相談の実施に向け、精神保健福祉士の配置場所等を決定するため、福祉事務所長連絡調整会議等での協議を計3回、区役所での協議を計2回行いました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		B	平成25年度の数値目標である平成26年度実施に向けての区役所との協議について、目標を達成できたことからB評価としました。		
20-2	精神障害者に対する支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		地域移行・地域定着支援連絡会議の設置		平成25年4月に、精神科病院入院患者が地域で暮らすために必要な支援のあり方を検討する地域移行・地域定着支援連絡会を設置し、当該連絡会を4回開催しました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		B	平成25年度の目標である地域移行・地域定着支援連絡会の設置について、目標を達成できたことからB評価としました。		
20-3	発達障害者に対する支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		発達障害者社会参加事業プランの策定		発達障害者社会参加事業プランの策定に当たり、就労を希望する発達障害者が家庭外の場所に通う体験を積む就労準備支援事業を27回実施しました。その成果を踏まえ、発達障害者の自立と社会参加を目的として、当該プランを平成26年3月に策定しました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		B	平成25年度の目標である発達障害者社会参加事業プランの策定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
20-4	発達障害児支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		・保護者向け勉強会の開催（6回） ・ペアレントトレーニング（1クール11回・8組1グループ）の試行		・保護者向け勉強会を6回開催しました。 ・ペアレントトレーニングを1グループ（6組）、全11回実施しました。	
		評 価	評 価	理 由	理 由
		B	平成25年度の数値目標である、保護者向け勉強会の開催等について、目標どおりの開催ができたためB評価としました。		

(5) 日本一の教育都市

		平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
21-1	中高一貫教育の拡充	基本方針の取りまとめ	有識者による「さいたま市中高一貫教育検討会議」を5回開催して意見を聴取するとともに、検討会議委員による中高一貫教育校の視察を3回行い、新たな中高一貫教育校の設置に向けた基本方針案を、平成26年3月に取りまとめました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標である基本方針の取りまとめについて、目標を達成できたためB評価としました。
21-2	「国際バカロレア」認定に向けた取組の推進	国際バカロレア制度の研究及び認定校の視察	国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会にオブザーバーとして3回参加し、国際バカロレア制度の研究を進めるとともに、平成25年6月に国際バカロレア認定校1校の視察を行いました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標である国際バカロレア制度の研究及び認定校の視察について、国際バカロレア認定に向けた準備を進めることができたことからB評価としました。
22-1	給食室の全校整備	給食室8校整備（157校/160校）	平成26年3月に、給食室8校の整備が完了しました。（157校/160校） ※平成24～25年度継続費 小・中学校6校 平成25年度 小学校2校
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の数値目標である8校の給食室整備が完了したことからB評価としました。
22-2	日本一笑顔あふれる給食～地元シェフと地場産物による食育の推進～	地元シェフによる学校給食を市立小・中・特別支援学校において20校実施	市立小・中・特別支援学校20校で「地元シェフによる学校給食」を実施しました。そのうち2校で「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」の開催月に合わせて、フランス料理シェフのプロデュースによる「地元シェフによる学校給食」を実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標どおり、市立小・中・特別支援学校20校において地元シェフによる学校給食を実施することができたことからB評価としました。
23	心のサポート推進事業の強化	・子どもサポートネットワーク代表者会の設置 ・中学校教員480人を自殺予防のゲートキーパーとして養成	・平成26年3月に、さいたま市子どもサポートネットワークを立ち上げ、代表者会を設置しました。 ・平成25年度は、中学校教員等を対象とした「ゲートキーパー研修会」を5回行い、463人をゲートキーパーとして養成しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標どおり、子どもサポートネットワーク代表者会の設置、ゲートキーパーの養成ができたことからB評価としました。
24	学校施設リフレッシュ計画の策定	・学校施設リフレッシュ計画の作成 ・小中学校のトイレの便器洋式化率36%を達成	・平成26年3月に、学校施設リフレッシュ計画の素案を作成しました。 ・平成26年3月に、小中学校のトイレの便器洋式化率36%を達成しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標どおり、学校施設リフレッシュ計画の素案を作成するとともに、小中学校のトイレの便器洋式化率36%を達成することができたことからB評価としました。
25-1	チャレンジスクールの拡充	チャレンジスクール参加者数延べ165,000人	平成25年度は、チャレンジスクールに延べ163,102人の参加がありました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の数値目標であるチャレンジスクール参加者数延べ165,000人に対し、延べ163,102人の参加があったことからB評価としました。

		平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
25-2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	学校支援ボランティア数22,600人	市立小・中・特別支援学校において26,568人の学校支援ボランティアに御協力をいただきました。
		評 価	評 価 理 由
		A	平成25年度の数値目標である学校支援ボランティア数22,600人に対し、26,568人の方に御協力をいただくことができたことからA評価としました。

(6) 健康・医療・福祉

		平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
26-1	地域活動団体と協働した生活習慣病予防の推進	システムの検討・素案作成	各区保健センターや健康増進課によるウォーキング事業等で、体組成計を使用し、持ち運びや設置方法、計測後の説明方法等について検討し、素案（使用マニュアル）を作成しました。（平成25年度の体組成計測者は延べ662人）
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標であるシステムの検討・素案作成について、庁内各課で体組成計を使用するルールを整えたことからB評価としました。
26-2	特定健診受診率を60%に向上	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		特定健康診査受診率39%	平成25年度の特定健康診査受診率は、34.2%でした。（平成26年7月末現在） ※対前年度比0.8%上昇
		評 価	評 価 理 由
		C	平成25年度の数値目標である特定健康診査受診率39%について、電話や文書による未受診者勧奨や市内イベント参加などの受診率向上啓発活動は実施したものの、主に40歳代から50歳代の受診率が伸びず、目標を達成することができなかったためC評価としました。
		課題	特定健診対象者における若年層（40歳代から50歳代）の受診率が極端に低い状況となっています。
対策	40歳代から50歳代に関心が高いと思われる賞品を受診者にプレゼントするキャンペーンを実施して受診のきっかけを作りました。また、平成26年5月下旬から7月中旬に実施する電話勧奨を、40歳代から50歳代を中心に約30,000件実施しました。		
27	健康マイレージ制度の創設	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		先行自治体の調査	健康マイレージ制度について、都道府県、政令指定都市、市区町村別に、特に有効な取組を実施している事例を取りまとめました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標である健康マイレージ制度を実施している先行自治体の調査について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-1	西区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースの設定	区役所を拠点にしたウォーキングコースを4コースと、ジョギングコースを3コース設定しました。ウォーキングコース・ジョギングコースマップを5,000部作成するとともに、市報西区版・ホームページなどでマップを紹介しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標であるウォーキングコース、ジョギングコースの設定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-2	北区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		・ウォーキングコース設定及びイベント開催50人 ・ジョギングコースの設定	・ウォーキングコースを区内に6コース設定しました。ウォーキングガイドブックを5,000部作成するとともに、ウォーキングイベントを開催しました。（参加人数84人） ・ジョギングコースの候補地を検討しましたが、平成25年度内の設定には至りませんでした。
		評 価	評 価 理 由
		C	平成25年度の目標であるウォーキングコースの設定とイベントの開催については予定どおり実施できましたが、ジョギングコースの設定については、候補地の検討にとどまり、目標未達成となったことからC評価としました。
		課題	ジョギングコース設定について、安全性を考慮したコースを設定する必要があるため、交通量が多く歩道が未整備の公道等をできるだけ避ける必要があり、コースの選定に時間を要しています。
対策	平成26年12月中のコース設定を目指し、公園や交通量の少ない道路等、安全性を確保できる候補を選定し、施設管理者を含め関係者との協議を行います。		

28-3	大宮区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		・(仮称)地域資源散策マップの作成・配布 ・ジョギングコースの設定及びPR	・4か所の散策コースを設定した散策マップを作成するとともに、観光ボランティアガイド会の案内のもと、平成26年3月に散策ツアーを実施しました。 ・大宮第三公園内のコースを大宮区推奨ジョギングコースに選定しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標である(仮称)地域資源散策マップの作成・配布及びジョギングコースの設定及びPRについて、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-4	見沼区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		・ウォーキング・ジョギングコースの設定 ・見沼区ガイドブックの発行	・見沼区の見所をつなぐ8つのウォーキング・ジョギングコースを設定しました。 ・平成26年3月に、8つのウォーキング・ジョギングコースを見沼区ガイドブック「みぬまをめぐる」で発表し、20,000部を発行、区内公共施設等で配布を行い、周知を図りました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標であるウォーキング・ジョギングコースの設定及び見沼区ガイドブックの発行について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-5	中央区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースの設定	区内にウォーキングコース3コース及びジョギングコース1コースを設定しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標であるウォーキングコース、ジョギングコースの設定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-6	桜区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースの設定	・新たに3つのウォーキングコースを設定し、区ホームページで公開しました。また、のびのびWalking(ウォーキング)や、桜区区制施行10周年記念事業「桜区再発見ウォーキングフェスタ」を開催しました。 ・ジョギングコースについては、既設の「さくらふれあいロード」のコース内に案内看板を設置する等、周知を図っています。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標であるウォーキングコース、ジョギングコースの設定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-7	浦和区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		ジョギングコースの設定	ジョギングコースの設定について、安全性の確保を重点に検証し、不適切な箇所についてはコースの変更等の調整を行い、平成26年6月に常盤北小学校等周辺コースを設定しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標であるジョギングコースの設定について、ジョギングコースに適していると思われる浦和駒場スタジアム敷地内や浦和総合運動場周辺等、いくつかのコースについて関係部署等の意見を参考にするなど、安全性の検証に時間を要しましたが、常盤北小学校等周辺コースについて平成26年6月に設定することができたことからB評価としました。		
28-8	南区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		区内で利用できる3つのウォーキングコース、ジョギングコースの再調査・検討・設定	区内のウォーキングコース、ジョギングコースについて、再調査して検討するとともに、市民活動団体・関係各所と調整し、3コースを設定しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の数値目標等である区内のウォーキングコース等の再調査・検討・設定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
28-9	緑区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		(仮称)緑太郎ロードの設定	平成26年3月に、ウォーキング・ジョギングコースとして「緑太郎ロード」を設定しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成25年度の目標である(仮称)緑太郎ロードの設定について、目標どおり設定できたことからB評価としました。		

28-10	岩槻区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースの再点検、設定	既存のウォーキングコース、ジョギングコースを再点検・設定するとともに、各コースを区ガイドマップの情報面に掲載して周知しました。
		評価	理由
B	平成25年度の目標であるウォーキングコース等の再点検、設定について、目標を達成できたことからB評価としました。		
29	社会保険大宮総合病院の移転存続	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		現病院の敷地とブラザノース北側市有地の双方の土地を処分・取得する契約の締結	現病院の敷地とブラザノース北側市有地の双方の土地の価格を決定し、処分・取得の条件について協議し、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構（現在の独立行政法人地域医療機能推進機構）との間で財産処分・取得に関する契約を締結しました。
		評価	理由
B	平成25年度の目標である現病院の敷地とブラザノース北側市有地の双方の土地を処分・取得する契約の締結について、予定どおり契約を締結できたことからB評価としました。		
30	小児・周産期医療の拡充	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		・関係団体との連携、情報共有 ・さいたま赤十字病院への市有地の貸付（新病院設計）	・整備を行うさいたま赤十字病院、埼玉県立小児医療センター及び県、日本赤十字社埼玉県支部、関係団体と連携し、整備のための情報を共有しました。 ・さいたま赤十字病院へ市有地を貸し付けました。
		評価	理由
B	平成25年度の目標である関係団体との連携、情報共有及びさいたま赤十字病院への市有地の貸付（新病院設計）について、予定どおり事業が実施できたことからB評価としました。		
31	市立病院の施設整備事業の推進と救命救急センターの設置	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		施設整備基本構想・基本計画策定	平成25年12月から平成26年1月にかけてパブリックコメントを実施した上で、同年3月に施設整備基本構想・基本計画である「さいたま市立病院施設整備基本計画」を策定しました。
		評価	理由
B	平成25年度の目標である施設整備基本構想・基本計画の策定について、目標どおり策定したことからB評価としました。		
32	さいたま市がん対策基本計画の策定、がん対策の強化	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		本市のがん対策の現状と課題の整理	・地域保健医療協議会において、さいたま保健医療圏のがん医療の現状と課題について整理しました。 ・埼玉県がん対策推進協議会に出席し、埼玉県がん対策推進計画の目標達成状況や県域の課題について把握しました。
		評価	理由
B	平成25年度の目標である本市のがん対策の現状と課題の整理について、目標を達成できたことからB評価としました。		
33	がん検診事業	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		5がんの平均受診率29%	5がん（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん）検診の受診率の向上のため、全対象者へ個別推奨はがきを送るなどの取組を行い、平成25年度の平均受診率は29%となりました。
		評価	理由
B	平成25年度の数値目標である5がんの平均受診率29%について、目標を達成できたことからB評価としました。		

		平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		評価	理由	評価	理由
34	(仮称)生活保護適正化対策本部の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)生活保護適正化対策本部の設置・開催 ・関係部署の連携による指導・支援の効果として不適切な施設入所者数100人減少 		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市生活保護適正化対策本部を平成26年1月に設置し、2月3日に本部会議を開催しました。 ・平成26年3月の施設入所者数は、前年対比で36人減少しました。(平成26年3月963人) ※被保護者等住居・生活・金銭管理サービス提供事業の業務の適正化等に関する条例に基づく届出施設入所者数 	
		C	平成25年度の数値目標等である(仮称)生活保護適正化対策本部の設置・開催及び関係部署の連携による指導・支援の効果として不適切な施設入所者数100人減少について、さいたま市生活保護適正化対策本部の設置・開催は実施できたものの、不適切な施設入所者数が対前年度比36人減少にとどまり、目標未達成となったことからC評価としました。		
		課題	関係部署との連携による施設開設者(事業者)に対する指導の強化及び入居者への自立支援が必要です。		
		対策	条例に基づき施設への立入調査を継続するとともに、関係部署と連携し合同立入調査等を実施し、法令等に違反する事業者等に対し是正勧告及び命令等を行い、適正な事業運営を行うよう指導していきます。 また、居宅生活が可能な施設入居者に対し民間アパート等への転居支援を行うとともに、居宅生活が困難な入居者に対し関係部署と連携し法定施設への入居を促進します。		
35-1	生活困窮者自立支援事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		生活保護受給者等の就労者数650人		就労支援員やキャリアカウンセラー等の就労支援により814人を就労に結び付けました。	
		A	平成25年度の数値目標である生活保護受給者等の就労者数650人について、目標を上回る814人が就労できたことからA評価としました。		
35-2	ホットラインの設置	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		生活保護適正化ホットラインの設置		生活困窮者及び生活保護の不正受給を早期発見・早期対応するための生活保護ホットラインを平成26年2月28日に開設し、市民への周知を行いました。	
		B	平成25年度の目標である生活保護適正化ホットラインの設置について、目標どおり開設できたことからB評価としました。		
36	DV防止対策と被害者支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		配偶者暴力相談支援センター設置に向けた相談体制の検討及び、業務実施に向けた関係機関との連絡調整の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者暴力相談支援センター設置に向けた相談体制の検討、それに伴う必要な経費の算出及び予算措置を行いました。 ・証明発行業務等、設置に法令等で必須となる事務について関係機関や庁内各課との意見交換を行いました。 	
		B	平成25年度の数値目標等である配偶者暴力相談支援センター設置に向けた相談体制の検討及び、業務実施に向けた関係機関との連絡調整を実施できたことからB評価としました。		

(7) 文化・芸術

		平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		評価	理由	評価	理由
37	(仮称)さいたまトリエンナーレの開催	(仮称)さいたまトリエンナーレ基本構想の策定		文化芸術都市創造審議会を中心に、様々な有識者や市民の意見を聴取した上で、平成26年3月に「(仮称)さいたまトリエンナーレ基本構想」を策定しました。	
		B	平成25年度の目標である(仮称)さいたまトリエンナーレ基本構想の策定について、予定どおり策定することができたことからB評価としました。		
38-1	盆栽文化の振興	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		年間来館者目標数55,000人(平成24年度比10%増)		企画展・特集展示を16回行ったことに加え、盆栽文化の振興を目的として、より幅の広い来館者層を取り込むため盆栽文化講座等を行った結果、年間来館者数は50,927人となりました。	
		B	平成25年度の数値目標である年間来館者数について50,927人となり、目標をおおむね達成できたことからB評価としました。		

38-2	(仮称)文化基金の設置	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		基金設置の検討		先行事例の調査などを実施し、(仮称)文化基金の設置に向けた課題整理を行いました。		
		評価	評価理由			
		B	平成25年度の目標である基金設置の検討について、基金の設置に向けた課題の整理が実施できたことからB評価としました。			
39-1	多様な市民ニーズに応える図書館機能の充実	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		市民一人当たりの貸出数 8.6点		<ul style="list-style-type: none"> ・「さいたま市インターネット市民意識調査」や図書館24館の来館者を対象とした「図書館の利用に関するアンケート」の実施により、市民ニーズの把握を行いました。 ・地域資料のデジタル化に向けて、方法を研究し、デジタル化する資料の選定を行いました。 ・平成25年度は、図書館24館合計で、約13万点の資料を新たに受け入れ、約1,020万点の貸出がありました。市民一人当たりの貸出数は、8.1点でした。 		
		評価	評価理由			
		B	平成25年度の数値目標である市民一人当たりの貸出数8.6点に対し、8.1点となり目標をおおむね達成できたことからB評価としました。			
39-2	子ども読書活動推進事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生不読者 3.4% ・中学生不読者 6.5% 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度読書についてのアンケート調査の結果、小学生不読者の割合は3.9%、中学生不読者の割合は6.1%となりました。 ・児童向け行事を901回実施し、15,125人の参加がありました。 ・本の紹介リストを対象年齢に合わせて4種類作成しました。 ・学校図書館支援センターを中心に、学校図書館に71,066冊の本を貸し出しました。 		
		評価	評価理由			
		C	平成25年度の数値目標に対し、中学生不読者の割合は6.1%となり、目標を達成できましたが、小学生不読者の割合は3.9%となり、目標を達成できなかったことからC評価としました。			
		課題	家庭における読書の大切さを十分に伝えることができず、小学生の読書に対する関心を高めることができませんでした。			
		対策	家庭における読書の大切さを伝え、小学生の読書への関心を高めるため、平成26年度に2つの新規事業を実施します。 ①「おうちで楽しく読み聞かせ～応援ガイド」を市内11の拠点館で実施します。児童担当職員が、家庭での読み聞かせの楽しみ方をアドバイスし、実演するイベントを通じて、読書の楽しさを親子に伝えます。 ②9月から小学生を対象に全館で読書ラリーを実施し、図書館からのミッションを親子で協力しながら達成すると、プレゼントがもらえるイベントを実施します。			

(8) 安全・安心

40-1	WHOセーフコミュニティの認証取得	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		セーフコミュニティの認証取得に関する研究		先進自治体を視察するなど、取組推進に向けて情報を収集しました。また、取組を推進する地域に当たる「取組モデル区」を選定するため、取組推進に関する説明を平成26年2月に行いましたが、取組モデル区を選定には至りませんでした。		
		評価	評価理由			
		C	平成25年度の目標であるセーフコミュニティの認証取得に関する研究、地域の選定について、取組モデル区を選定に至らなかったことからC評価としました。			
		課題	地域における取組を推進する上で、地域と一体となった取組が必要なため、丁寧に説明を重ね、理解を得る必要があります。			
対策	地域と一体となった取組を推進するため、区をはじめ様々な地域設定を検討するとともに、あらゆる機会を捉えて地域住民に対して理解が得られるよう説明をしていくことで、地域の選定を進めます。また、地域の安心安全に関係する様々な団体にも取組の推進に関し説明を行い、協力を求めていきます。					

40-2	WHOのインターナショナルセーフスクール認証取得	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		インターナショナルセーフスクール認証取得に関する研究・取組の充実	インターナショナルセーフスクールの認証を取得するために必要な条件などを整理して資料を作成するとともに、先進自治体への視察や情報交換を行うことにより研究を進め、理解を深めることができました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の目標である、インターナショナルセーフスクールの認証取得に関する研究について、目標どおり研究・取組を進めることができたことからB評価としました。
40-3	ASUKAモデルの普及や発信	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		市立全中・高等学校及び小学校10校においてAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習実施	平成25年度は、市立全中・高等学校及び小学校10校において、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の数値目標どおり、実習を実施することができたことからB評価としました。
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		・消防団員確保対策の実施 ・消防団員増員（純増25名）	分団増強に係る地域との調整及び団員確保対策として各種広報活動、処遇改善の取組を行った結果、入団者63名、退団者58名の純増5名（充足率92.3%）となりました。
		評 価	評 価 理 由
		C	平成25年度の数値目標である消防団員の純増25名に対し5名の増員にとどまり、目標を達成することができなかったためC評価としました。
		課題	平成25年度については、63名の入団者に対し、退団者が58名となっていることから、退団者を減らすことが消防団員増員に必要です。また、消防分団の団員数にばらつきがあることから、バランスの取れた体制を確保していく必要があります。
対策	勤務の都合や健康・体力（病気）等の理由により、退団を余儀なくされる状況を解消し、消防団員の退団を抑制するために、「休団制度」を制定しました。また、平成26年度は、平成25年度と同様に自治会への説明会を実施するほか、市内の大学生、商工会議所、日本郵政グループ等に対する説明会を実施します。		
41-2	防災アドバイザーの育成活用	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		避難場所運営訓練への参加率70%	・防災アドバイザーのスキルアップ研修として、平成25年11月から12月に、グループワーキングなどの座学と救出訓練などの実技研修を実施しました。 ・避難場所運営訓練への参加の呼びかけを行ったことにより、避難場所運営訓練への参加率が73%となりました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の数値目標である避難場所運営訓練への参加率70%について、参加率73%となったことからB評価としました。
41-3	防災ボランティアコーディネーターの育成活用	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率55%	・災害ボランティアコーディネーターのスキルアップ研修として、経験者による講演、図上訓練などを実施しました。 ・防災ボランティアコーディネーターにボランティアが派遣されるまでの流れを理解してもらうため、総合防災訓練において、災害ボランティアセンターの視察などの運営訓練を実施し、延べ参加率は57%となりました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成25年度の数値目標である災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率55%について、57%を達成できたことからB評価としました。

4 1 - 4	中学校での防災教育	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		全ての中学校において、教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練		全ての中学校（57校）において教育課程に位置付けた防災教育を実施し、うち42校で緊急地震速報を活用した避難訓練を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の目標である、全ての中学校での防災教育、避難訓練の実施について、緊急地震速報を活用した避難訓練が実施できなかった中学校が15校あったことからC評価としました。			
		課題	緊急地震速報を活用した避難訓練については、新たな取組だったため各学校への浸透が十分に図れませんでした。			
対策	緊急地震速報を活用した避難訓練未実施15校の管理職に対して、平成25年度に平成26年度の実施について指導しました。また、平成25年度末及び平成26年度当初に開催した全ての市立学校の管理職対象研修会において、「火災想定」「緊急地震速報活用」「竜巻想定」の避難訓練を年1回以上実施するよう指導しました。さらに、平成26年5月に開催した全ての市立学校の安全教育主任対象の研修会において、同様の指導をしました。					
4 2	高層マンションの自主防災組織等・防災備蓄の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		高層マンションの実態調査		・市内高層マンションの棟数や分布を把握するため、11階建て以上の高層マンションの実態調査を行いました。 ・高層マンション防災ガイドブックを15万部作成し、マンション居住者に配布し、高層マンション特有の被害を周知することにより、地域の防災対策を促しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の目標である高層マンションの実態調査、高層マンション防災ガイドブックの作成、配布について、目標を達成できたことからB評価としました。					
4 3	身近な地域の防災拠点への支援	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		地域の防災拠点の選定基準作成		地域の防災拠点の対象となる施設の構造や、自主防災組織を運営主体とすること等の条件設定のほか、自主防災組織の意見を踏まえた支援内容を盛り込んだ選定基準を作成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の数値目標である地域の防災拠点の選定基準作成について、目標どおり作成できたことからB評価としました。					
4 4 - 1	ゾーン30の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		7地区の整備（累計10地区）		平成25年度内に、ゾーン30を市内7地区において整備しました。（累計10地区）		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の数値目標であるゾーン30の7地区整備について、目標どおり整備することができたことからB評価としました。					
4 4 - 2	通学路の安全対策の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を実施し、改善の必要な箇所への対策を実施（安全点検実施率100%）		全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を行い、対策の必要な箇所については、担当課において路面標示の設置等、交通安全対策を実施しました。このうち、改善の必要性が高い箇所については、関係機関による合同点検を実施のうえ、担当課において交通安全対策を講じました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の目標である、全ての市立小・中学校における通学路の安全点検を実施するとともに、改善の必要な箇所への交通安全対策を講じることができたことからB評価としました。					
4 4 - 3	交通安全教育の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		市立全小学校で「子ども自転車運転免許制度」を実施		平成25年度は、市立全小学校で、原則として4年生の児童を対象に「子ども自転車運転免許制度」を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の目標である、市立全小学校での「子ども自転車運転免許制度」を実施することができたことからB評価としました。					
4 4 - 4	交通安全教室開催事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		市交通安全教室開催数 210回		市交通安全教室を214回開催しました。 ※内訳：小学生を対象とした教室160回 園児・高齢者等を対象とした教室54回		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成25年度の数値目標である市交通安全教室開催数について、214回開催することができたことからB評価としました。					

(9) 自然・環境

45-1	見沼んぼの総合情報発信基地の整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		運営基本構想策定		見沼んぼの「新たな交流の場」の整備に向けて、サービス内容や機能、役割分担、組織体制など運営内容を「運営基本構想」として策定しました。		
		評価	評	価	理	由
		B	平成25年度の目標である、見沼んぼの「新たな交流の場」の運営基本構想について、目標どおり策定したことからB評価としました。			
45-2	国指定史跡見沼通船堀の保全	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		見沼通船堀の再整備方法を検討		見沼通船堀の再整備方法について、全体の工程案を作成し、国（文化庁）及び県（教育委員会）と協議して検討し、平成26年度の再整備方針決定に向けた準備を行いました。		
		評価	評	価	理	由
		B	平成25年度の目標である、見沼通船堀の再整備方法について、目標どおり検討を進めることができたことからB評価としました。			
46	新セントラルパーク構想	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		整備方針のとりまとめ		次期整備地区について関係部局と協議を行い、庁内の「さいたま市長成長戦略 広域防災拠点都市づくりPT」における防災拠点整備の検討結果を踏まえて、新セントラルパークの機能を決定することとしました。		
		評価	評	価	理	由
		C	庁内の「さいたま市長成長戦略 広域防災拠点都市づくりPT」において、当地区の位置付けや防災機能などを部局横断的に検討するとともに、県などの関係部局と協議を行いました。が、新セントラルパークに導入する防災機能、整備手法等の整備方針について、取りまとめに至らなかったことからC評価としました。			
		課題	市の「広域防災拠点都市づくりPT」において、本市において整備すべき広域防災機能の検討、国との協議に時間を要しています。			
	対策	「広域防災拠点都市づくりPT」にて現在、検討している広域防災機能のうち、次期整備地区において導入可能な機能を導入する方向で検討を進めます。				
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼んぼプロジェクト	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		・実行委員会の設立 ・桜の植樹（約800m）		・平成25年11月8日に、「目指せ日本一！サクラサク見沼んぼプロジェクト実行委員会」を設立しました。 ・桜の植樹を11月と3月の2回と、3月29日に見沼区東宮下地内での植樹祭において桜の植樹を行い、合計で1.0km（132本）の植樹を行いました。		
		評価	評	価	理	由
		A	平成25年度の目標である、実行委員会を設立するとともに、桜の植樹について、目標を上回る1kmの植樹を行ったことからA評価としました。			
47-2	水辺再生・サポート活動の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		「水辺のサポート制度」を市民や関係団体に対し周知		市内で環境美化活動をしている団体に対して、平成26年3月に「水辺のサポート制度」の案内通知を送付するとともに、市報平成26年1月号等で制度の周知を行い、未加入の団体や市民に活動参加を呼びかけました。		
		評価	評	価	理	由
		B	平成25年度の目標である「水辺のサポート制度」の周知について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。			
47-3	高沼用水路の整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		約0.5km整備（整備率18%）		・高沼用水路西縁において、親水型歩行空間を約0.35km整備しましたが、平成24年度着工の工事が順調に進まず、整備率は約7%にとどまりました。 ・市民団体との協議を踏まえながら、平成26年度整備予定箇所の詳細設計を行いました。		
		評価	評	価	理	由
		C	平成25年度の数値目標である高沼用水路約0.5kmの整備について、整備延長が0.35kmにとどまったことからC評価としました。			
		課題	市民団体との協働事業として進めているために、詳細設計に際して、市民団体との調整に時間を要します。			
	対策	早期に市民団体との意見交換を実施し、日頃から市民団体と情報共有を図り、円滑な調整に努めます。				

48	滞在型市民農園と農業交流施設の整備	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		関係部局による整備方針の策定		・関係部局による施設整備に向けての課題抽出や市民農園利用者へのアンケート調査の実施によるニーズ把握を行いました。 ・農業振興ビジョン（都市農業基本指針）重点プロジェクトへの位置付けを行いました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の目標である整備方針の策定について、今後の推進に向けた施設整備の課題の抽出及び農業振興ビジョン（都市農業基本指針）重点プロジェクトへの位置付けを行いました。関係部局との協議を踏まえた将来整備方針の策定には至らなかったことからC評価としました。			
		課題	農業交流施設開設候補地を農業者トレーニングセンター南側の「緑の広場」として関係各課と協議した結果、現状では都市計画上、「環境施設用地」であり、「ごみ焼却場などの環境施設」以外の建設ができません。			
対策	目標達成に向けて、土地利用のあり方の見直しを含めて関係局と検討を進めます。					
49-1	全市立小学校のエネルギーセキュリティ確保	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		31校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置		市立小学校20校、市立中学校11校の計31校に太陽光発電設備及び蓄電池を設置しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の数値目標である31校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置について、目標どおり整備することができたことからB評価としました。			
49-2	メガソーラー推進事業～SUN-SUN Power Project～	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		・岩槻区川通地区について平成25年度事業開始に向けた手続を実施 ・新規箇所の実施に向けた候補地選定等準備作業を実施		・事業開始に向けた手続を実施し、平成26年3月に岩槻区川通地区大規模太陽光発電所（メガソーラー）が竣工し、発電事業を開始しました。 ・新規箇所の実施に向けた候補地選定等準備作業として、局内関係各課との協議を進めました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である川通地区のメガソーラーの発電事業について、目標どおり事業を開始することができました。また、新規箇所の実施に向けた候補地選定等の準備作業について、局内関係各課との協議を進めることができたことからB評価としました。			
49-3	市有施設太陽光発電設備設置プロジェクト	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		市有施設への太陽光発電設備等の設置に係る導入可能性調査		市有施設への太陽光発電設備等の設置に係る導入可能性調査の基礎調査を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である市有施設への太陽光発電設備の導入可能性調査について、目標どおり調査を実施したことからB評価としました。			
49-4	環境にやさしい小水力発電の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		・尾間木配水場に小水力発電設備を設置、運転開始・稼働 ・深作配水場に小水力発電設備を設置		尾間木配水場及び深作配水場に小水力発電設備を設置し、尾間木配水場については、平成26年3月から稼働しています。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である尾間木配水場の小水力発電設備の設置、運転開始・稼働、深作配水場の小水力発電設備の設置について、目標どおり設置及び稼働できたことからB評価としました。			
49-5	新クリーンセンター整備によるごみ発電の促進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		施設工事進捗率36%		新クリーンセンターの施設工事について、平成26年度予定工事の一部前倒しを行った結果、進捗率は47%となりました。		
		評 価	評 価 理 由			
		A	平成25年度の数値目標である施設工事進捗率36%について、目標を上回る47%となったことからA評価としました。			
49-6	木質等バイオマスエネルギーの普及拡大	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		バイオマスエネルギー活用の先進事例等の調査		指定都市自然エネルギー協議会（バイオマス分科会）への参加、市内産業廃棄物事業者へのヒアリング及びバイオマスエネルギー施設の視察により、バイオマスエネルギー活用の先進事例等の調査を行いました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である先進事例等の調査について、目標どおり調査を実施したことからB評価としました。			

49-7	市有施設の屋根貸しによる太陽光発電の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		屋根貸し事業の検討		屋根貸しの事業スキームや屋根貸し事業の対象施設、事業者選定の基準等の条件を検討しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の目標である屋根貸し事業の検討について、目標どおり検討を行ったことからB評価としました。		
49-8	市民ファンド等の市民参画による再生可能エネルギーの導入促進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		市民ファンドや寄付等の市民参画の再生可能エネルギー導入手法の調査・研究		先進事例の調査を行うとともに、地域主導型の再生可能エネルギー事業の構築を目指す「都市と森をつなぐ再生可能エネルギー協議会」に参加し、再生可能エネルギーの先進事例についての研究を行いました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の目標である市民参画の再生可能エネルギー導入手法の調査・研究について、目標どおり調査・研究を行ったことからB評価としました。		
50	環境センターからサーマルエネルギーセンターへ！ ～西部環境センターと東部環境センターの統廃合～	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		PFI手法の活用について検討し、導入の有無を決定		・さいたま市PFI活用方針に基づき、PFI導入可能性調査を実施した結果、PFI手法は本事業に馴染まないことにより、広くPPP手法を採用することとしました。 ・環境に与える影響について評価するため、整備予定地周辺の環境状況を調査するための計画書を策定しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の数値目標等であるPFI手法の活用についての検討について、PPP手法を採用することと決定したことからB評価としました。		

(10) まちづくり・コミュニティ

51	暮らしの道路、スマイルロードの整備推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		120件の整備		・暮らしの道路整備事業、スマイルロード整備事業を合わせて年間131件を整備しました。 ・未処理案件の精査を行い、25件を削減しました。 ・要望の受付や対応状況について、市ホームページで公表しました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の数値目標である暮らしの道路、スマイルロード120件の整備について、131件整備することができたことからB評価としました。		
52	無電柱化の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		新規整備路線の検討・協議・調整		新たな整備対象路線として一般県道大間木蔵線等の5路線について、関係機関と整備に向けた協議を行い、おおむね調整を図ることができました。	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の目標である新規整備路線の検討・協議・調整について、目標どおり調整を図ることができたことからB評価としました。		
53	身近な公園整備事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績	
		公園5か所開設		南中丸ひだまり公園、風の子第二公園、領家立野公園、東宮下親水公園、南中野西浦公園の5か所の公園を開設しました。(南中野西浦公園のみ、平成26年5月に繰り越して完成)	
		評 価	評 価	理 由	
		B	平成25年度の数値目標である公園5か所開設について、平成25年度内に4か所、平成26年5月に1か所の公園を開設し、おおむねスケジュールどおり整備できたことからB評価としました。		

5 4	駅のバリアフリー化の促進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		バリアフリー設備整備率87.9% (29駅/33駅)		<ul style="list-style-type: none"> ・北浦和駅西口改札外エレベーター及び指扇駅改札内外エレベーターを整備しました(指扇駅は駅舎橋上化事業)。 ・東大宮駅東口改札外エレベーター設置工事に着手しましたが、鉄道事業者及び関係機関との協議・調整に日数を要し、平成25年度内の事業完了には至りませんでした。 ・今羽駅改札内エレベーター整備について、度重なる入札不調により、工事着手に至りませんでした。 ※バリアフリー設備整備率 81.8% (27駅/33駅)		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の目標である、バリアフリー設備設置率87.9%について、81.8%となり目標を下回ったことからC評価としました。			
		課題	今羽駅エレベーター設置工事について、資材価格の上昇等の理由により入札が不調となりました。背景には、東京オリンピック開催決定等による建設需要の高まりが考えられます。			
対策	資材価格の上昇に対応するため、今羽駅エレベーター設置工事に加え、平成26年度に予定している東宮原駅エレベーター設置工事の予算を平成26年6月議会において補正した上で、両駅ともに平成26年秋頃に工事契約締結、平成27年度中の整備完了を目指します。					
5 5	東日本大震災復興支援を含めた卸売市場活性化事業	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		復興支援物販イベントの試行実施		平成26年3月に大宮市場において、東北地方の水産・農産物を販売する「東日本大震災復興支援市場まつり」を開催しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標である復興支援物販イベントの試行実施について、目標どおり開催できたことからB評価としました。			
5 6-1	自治会加入促進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		自治会加入世帯数1,500世帯増		様々な機会を通じて自治会加入促進を行うことで、自治会加入世帯数が3,313世帯増えました。		
		評 価	評 価 理 由			
		A	平成25年度の数値目標である自治会加入世帯数1,500世帯増について、目標を上回る3,313世帯増となったことからA評価としました。			
5 6-2	自治会館の整備促進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		自治会集会所整備数35件		自治会集会所を35件整備しました。 ※内訳：建設5件 増改築修繕30件		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の数値目標である自治会集会所整備数35件について、目標どおり35件の整備が実施できたことからB評価としました。			
5 7	NPO等との協働事業の推進	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		マッチングファンド制度による助成事業の実施(6事業)		<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングファンド制度による助成事業を3事業実施しました。 ・年間を通じて協働をコーディネートする「協働のテーブル」を開始しました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成25年度の数値目標であるマッチングファンド制度による助成事業の実施(6事業)について、4事業を採択しましたが、1事業が実施に至らなかったため3事業の実施となり、目標を達成することができなかったことからC評価としました。			
		課題	マッチングファンド制度の認知度と理解度が不足しています。			
対策	マッチングファンドニュース等を作成し、市内公共施設にて配布します。また、各区のネットワーク会議等で制度の説明会を開き、制度の理解を広めます。また、マッチングファンドをテーマに、市民活動サポートセンターの交流会の開催を予定しており、多くの参加団体に対し、制度の理解を広めます。					
5 8	マンション管理組合への支援の拡充	平成25年度の数値目標等		平成25年度の実績		
		支援ニーズの把握、情報収集		平成26年度から実施するマンションの訪問調査に向け、既存データを活用した支援ニーズの把握、他市の支援策等の情報収集を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成25年度の目標であるマンションの支援ニーズの把握、情報収集について、おおむね達成できたことからB評価としました。			

59	空き家、空き店舗を活用した地域コミュニティ活性化	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		新たな取組方策の取りまとめ	空き店舗に関する基礎調査や商店街、関係機関との情報交換を行い、新たな取組方策について取りまとめました。
		評価	評価理由
		B	平成25年度の目標である新たな取組方策の取りまとめについて、目標を達成できたことからB評価としました。
60-1	(仮称)アーバンデザインセンターみその設置	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		情報発信拠点の設置	平成25年9月29日に、浦和美園駅に情報発信拠点として「浦和美園インフォメーションセンター」を設置し、まちづくりなどに関する情報提供を開始しました。(来客者数3,119人)
		評価	評価理由
		B	平成25年度の目標である情報発信拠点の設置について、目標どおり事業を進めることができたことからB評価としました。
60-2	(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置	平成25年度の数値目標等	平成25年度の実績
		アーバンデザインセンターの機能等についてのビジョン推進懇談会への報告	大宮駅周辺地域まちづくり連絡会において、情報共有やまちづくりのコーディネート等、アーバンデザインセンターに求められる機能について地元まちづくり団体から意見をまとめ、大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進懇談会に報告しました。
		評価	評価理由
		B	平成25年度の目標である、アーバンデザインセンターの機能等についてのビジョン懇談会への報告について、目標どおり報告を行ったことからB評価としました。

しあわせ倍増プラン2013 平成25年度達成状況報告書

発行年月 平成26年9月
編集発行 さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
電話：048(829)1064 FAX：048(829)1974
E-Mail：toshi-keiei@city.saitama.lg.jp

この報告書は300部作成し、1部当たりの印刷経費は71円（概算）です。